

# 日本アディクション看護学会

## News Letter 第26号

2015年12月1日 発行

日本アディクション看護学会事務局

第14回日本アディクション看護学会学術集会開催を終えて  
大会長 五十嵐 愛子(創価大学看護学部看護学科教授)

2015年9月5日～6日、第14回日本アディクション看護学会学術集会を東京都八王子市の創価大学中央教育棟にて開催致しました。今大会は、開催1年前から臨床現場で活躍されている皆様と教員ともに成功を願って準備を進めてきました。

学会当日は天気にも恵まれ約200名の参加があり、ご参加いただきました皆様とご協力して下さった皆様に心よりお礼申し上げます。

本大会のテーマは「当事者中心の地域生活向上のために―多機関と地域をつなぐアディクション看護―」と致しました。

1日目の<大会長講演>では**依存症は本人の病気、家族の病気、社会の病気**であると話し、当事者、司法、医療、保健、福祉、教育、地域等の連携で、依存症の予防・早期発見・早期治療・社会復帰支援が重要と講演させていただきました。

続いて埼玉県立精神医療センターの成瀬暢也副院長による<基調講演>では、「**当事者中心の依存症治療と回復支援**」というテーマのもと、ストレスに耐えられなくなる



大会長 五十嵐 愛子

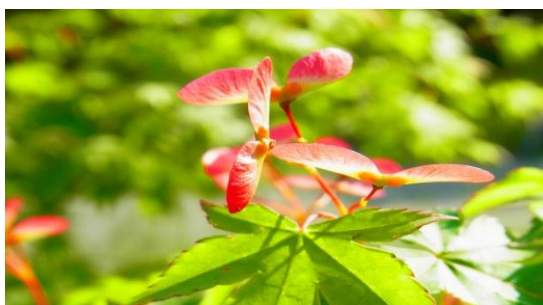
(創価大学看護学部看護学科教授)

ると話され、風鈴とクーラーの例を挙げられて依存症になると感動がなくなり素面では生きにくくなる患者の立場と、治療者が患者を尊重して治療・回復支援にあたる治療者の立場について講演されました。

<シンポジウム1>では「**アルコール依存症の看護教育の現状と課題**」というテーマで、医療機関に勤務する看護師と教育研究機関の教員による発表と活発な意見交換が行われました。アルコール依存症の看護に

については教育機関で学びの差があり、アルコール依存症患者に陰性感情を持つ看護師をどのように育てたらよいか等が課題となりました。

＜交流集会1＞では「アディクション問題にかかわる援助職者サポートグループ2015年」をテーマに、援助職者の日頃感じていることや考えていることを語り合い、問題意識や課題を共有されていました。



＜交流集会2＞では「アディクション看護の事例検討」をテーマに、精神科病院、依存症病棟、依存症外来におけるアディクション困難事例が提示され、活発な事例検討が行われました。アディクション看護の今後の発展性が共通に認識されていました。



2日目の＜教育講演＞では、慶應義塾大学医療技術学部の加藤眞三教授が「患者学で見つけた新しい医療の姿」をテーマに、患者からの発信を医療に生かすことを講演されました。



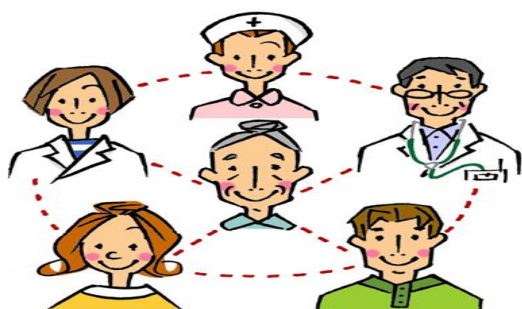
＜ランチョンセミナー＞ではこころの相談室「リカバリー」の吉岡隆先生が、「私の物語『治らない病気』の治療ゴール」をテーマに講演され、多くの参加者が吉岡先生の体験と援助職者としての活動に関心を寄せていました。



＜交流集会3＞では「多職種連携による治療プログラムの実践報告」をテーマに、Serigaya Collaboration for Open heart Project(SCOP)の取り組みを中心にプログラムの紹介と活発な討議があり、参加者は意義深い知見があったなどの声を寄せていました。

＜交流集会4＞では「動機付け面接ワークショップ」をテーマに、参加者は動機付け面接の場面を体験できさらに勉強したいとの声が多くありました。

<シンポジウム2>では「依存症を抱える当事者の地域での生活を支える」をテーマに、刑務所職員、ダルク職員、医師、看護師、訪問看護師の立場からの活動報告があり、それぞれの連携の重要性に関心が寄せられていました。



また、2日間の一般演題数は23演題にのぼり、5群に分けて行われました。一般演題のそれぞれの発表は先進的なものが多く、参加者は興味を示されていました。

今大会も全てのプログラムにおいて時間が足りないくらい活発であり、次の大会に継続したいものばかりでした。参加者からは「テーマに合った学術集会であり、現在多岐にわたる依存症問題について学べました」、「アルコール依存症の看護教育、スマートフォン依存、虐待については特に興味深かった」などの声が寄せられました。



今回の学術集会を終え、依存症の発症は社会背景によるものも多く、今後ますます増える病気と認識を深くいたしました。地域で生活する私たち一人一人が依存症の発症を予防し、また治療とリハビリテーションの促進にそれぞれの人が支え合い、その人らしい生活が送れるように共に支え合いたいと思います。

以上、第14回大会について簡単に報告させていただきました。最後に、準備から当日の運営、まとめの会議までご尽力いただきました皆様に感謝申し上げます。



#### 《日本アディクション看護学会総会報告》

平成27年9月6日（日）、日本アディクション看護学会総会が開催された。平成26年度活動報告および平成27年度活動計画について各委員長より報告があった。

編集委員会からは、学会誌「アディクション看護」は、発刊が遅れたが平成27年10月、平成28年3月に今年度分を発行する予定であるとの報告がなされた。

認定看護師委員会からは、特定看護師制



度に関する国の方向性が得られたため、新たに 27 年度より再出発する方針である旨報告がされた。

事務局からは、平成 26 年度より聖徳大学に事務局を移し活動を行っている旨と報告された。

広報委員会からは、国内の医学系学会、看護系学会などを中心にポスターの配布、広報活動などを行っていること、年間を通じた研修会の開催について報告があった。

理事選挙管理委員会からは、平成 27 年度からの新役員の改選結果について報告があった。

新理事長には、筑波大学大学院森千鶴先生が選出された。ほかの理事には、五十嵐愛子（創価大学）、日下修一（聖徳大学）、近藤千春（藤田保健大学）、篠原百合子（近大姫路大学）、重黒木一（慈友クリニック）、松下年子（横浜市立大学）、丸山昭子（共立大学）、吉岡幸子（埼玉県立大学）、米山奈奈子（秋田大学）が選出された。（敬称略）

指名理事としては、田中留伊（東京保健医療大学）、伊藤桂子（東京保健医療大学）、河口朝子（長崎県立大学）、原田美智（九州看護福祉大学）が承認された。幹事は、内野小百合（防衛大学校）、荒木とも子（埼玉医科大学大学院）、大澤優子（埼玉医科大学）が承認された。（敬称略）

#### 《 事務局からお知らせ 》

入会申し込み・学会費未納の方は、振込用紙をホームページからダウンロードしてご使用ください。

<http://plaza.umin.ac.jp/~jaddictn/>

#### 《編集後記》

実りの秋に八王子の地において、第 14 回日本アディクション看護学会学術集会が開催されました。大会長からの報告を頂き、参加できなかった会員の皆様も会の様子をおぼろげに知る事ができたと思います。

第 15 回日本アディクション看護学会学術集会・総会は、2016 年 9 月 3-4 日に武庫川女子大学（兵庫県）で、實田穂先生大会長のもとに行われます。

来年も大いにアディクション看護を語り合しましょう。



日本アディクション看護学会事務局

〒271-8555

千葉県松戸市岩瀬 550

聖徳大学看護学部精神看護学日下研究室

TEL : 047-365-1111 (代表)

【事務局 E-mail】

[jadict-office@umin.ac.jp](mailto:jadict-office@umin.ac.jp)

日本アディクション看護学会補助機関誌

発行：平成 27 年 12 月 1 日

編集長：荒木とも子

発行者：日下 修一

日本アディクション看護学会事務局